

# 「この本の つかい方」, 「(1) いのちを大切に」, 「(2) 生きものに やさしく」での実践例

『わたしたちの道徳』には、使い方の導入指導が必要である。そこで、「この本の つかい方」を他の指導と関連付けて指導する。ここでは、1年生での『わたしたちの道徳』の導入的な扱いや植物栽培の体験的活動を通して、道徳に対する関心・意欲を喚起する。

「道徳」とは、「正しい生き方」だとここでは定義する。低学年はどちらかというと自己中心的なものの考え方に偏る。自己を大切にする生き方がまずは大事である。それと共に、他者をも大切にさせたい。自他共にとの生命尊重である。そこで、ここでは、最初に「(1) いのちを大切に」を扱う。更に、1年生での初期段階での指導なので、「この本の つかい方」も扱う。また、低学年は体験的活動を通して、徳目を実感させたいので、コスモスの苗の移植も経験させる。その際、栽培に関連する「(2) 生きものに やさしく」も扱う。このように『わたしたちの道徳』は子供の実態に応じて、担任が道徳の時間の指導に用いるとよい。どこからでも、何度でも扱ってもよい。

- 1 道徳の時間の指導(案)(平成26年6月26日5校時目, 妹背牛小1年33名, 柳谷直明指導)
- (1) 主題名 名前は命を呼ぶ言葉
- (2) ねらい 自分の名前を丁寧に書き, 自分の名前を大切にさせると共に他の名前も大切だと気づかせる。更に, 草花にも名前があり, 大切な命だと気付かせ苗の移植を体験させる。
- (3) 資料名 「(1) いのちを大切に」他 / 内容項目 3-(1)
- (4) 展開例 (本時1/1)

段階	○発問 (◎主発問) ・予想される子どもの反応等	*教師の働きかけ ■評価等
導入	1 動機付け ○ 「6時になると1年生が勢いよく自転車で走って帰る。校長先生はそれを見て何が心配か。」 ・ 事故に合わないか。車に轢かれないか。 ○ 「一番大切なのは何かを勉強する。」	生活に関連付けなくはないわけではない。しかし、本時の価値を伝え、その必要性を理解させてから指導すべきである。
展開前半	2 音読 『わたしたちの道徳』4～5ページを一斉音読させ、使い方を知らせる。90～91ページも一斉音読させる。 3 記述 ○ 「家で生まれたときの話を聞いて、自分で書く。インタビューだ。今は名前を丁寧に書く。」 4 討論 ◎ 「名前は命を呼ぶ言葉。だから、自分の名前は大切だ。すると、他の人の名前は大切でない。 ○か×か。なぜなら、と続けて書く。」 ・ 他の人の名前も命を呼ぶ言葉だから大切。	* 言語活動1 音読 速く読んだり、遅く読んだりさせ、何度も読ませる。 * 言語活動2 記述 ゆっくり、丁寧に書かせる。 * 言語活動3 討論 立場・根拠の自己決定、反論を経験させる。 ■ 自分の考えを持ち、仮の人間(ここでは、人形)に反論できたか。
展開後半	5 体験 ○ 「名前が付いているのは人間だけか。人間だけに命があるのか。これは何だ。」 ○ 「大切なこの苗を育てたい人? 102ページを開く。『生きものの名前』にコスモスと書く。どのような心で育てたいかを横に丁寧に書く。2文書いた人から、外へ出てよい。」 半分くらい外に出たら、書けていない子も出す。 ○ 「どのような心で植えるか。」 ・ 優しい心で。大きくなれという心で。	* 実物を見せ、関心を喚起する。コスモスの苗を見せる。 * 植物にも命があると知らせる。命の大切さと共に、感謝の心も関連して育てたい。 * 優しく植える行動で優しいという言葉と心を理解させる。 ■ 優しく植えるという行為で優しさを表現できたか。がんばりを称賛する。
終末	6 振り返り 手を洗い、教室へ戻り、158ページを書かせる。 ○ 「今日は持ち帰り、91ページはインタビューをして書き、158ページは家の人に書いて貰う。」	うがい、手洗いをさせる。 宿題のページに付箋を貼らせる。聞く付箋。書いてね付箋。